

VII. 防疫対策上の反省点と今後の改善策

今回の豚コレラ発生は、日頃家畜衛生に携わる行政部門、家保、家衛試、開業獣医師に大きな衝動をもたらし、同時に、初心に還って真摯な反省をなす絶好の機会を与えた。我々技術者は、“災い転じて福となす”の譬え通り、この災難を単なるアクシデントにとどめず進んで将来へのエポックメイキングに転化させて行かねばならない。

今後の課題としては、「常に初動防疫を念頭に置いて緊迫感をもって事に当る」ことを要諦として、実態を十分掌握し大局的な見地から判断を下すことが大切である。また、管理者は勇気と決断をもってリーダーシップを発揮すべきである。

以上を基本的な思想とする認識のもとで、下記事項をもって具体的な反省点としたい。

反省点

- (1) 農家の自己反省（自家治療、未接種豚の存在、防疫意識）
- (2) 疾病発生報告の遅延及び適切な情報収集についての再認識。
- (3) 疫学調査の徹底
- (4) 病性鑑定材料採取方法の再確認（県家衛試）
- (5) 検査体制上の不備（検査技術等）
- (6) 県家衛試は必要に応じて農林水産省家畜衛生試験場九州支場及び本場のサポートを受ける。
- (7) 関係獣医師の豚コレラについての再認識及び再教育。
- (8) 市町村、農協及び関係団体に対する衛生知識の普及啓蒙。
- (9) 防疫演習の不徹底。

今後の改善策

- (1) ワクチン接種率の向上（関係者に対し講習会、文書等による指導強化）
- (2) 農家台帳の作成（戸数、頭数、未接種豚の把握）
- (3) 衛生情報収集の強化（モニター農家、飼料・薬品業者等）
- (4) 衛生指導事業の強化（立入検査を重点的に実施）
- (5) 検査体制の再整備（県家衛試、各家保）
- (6) 家畜防疫衛生対策について関係団体との連携強化。
- (7) 防疫衛生技術向上のための定期講習会の継続実施。
- (8) 防疫演習の強化（オーエスキー病、ニューカッスル病、炭疽等）
- (9) 家畜商に対する再教育の強化。
- (10) 豚の流通状況把握（県外導入、家畜セリ市場）
- (11) 国の検査機関との連携強化。

農 家 台 帳 (豚)

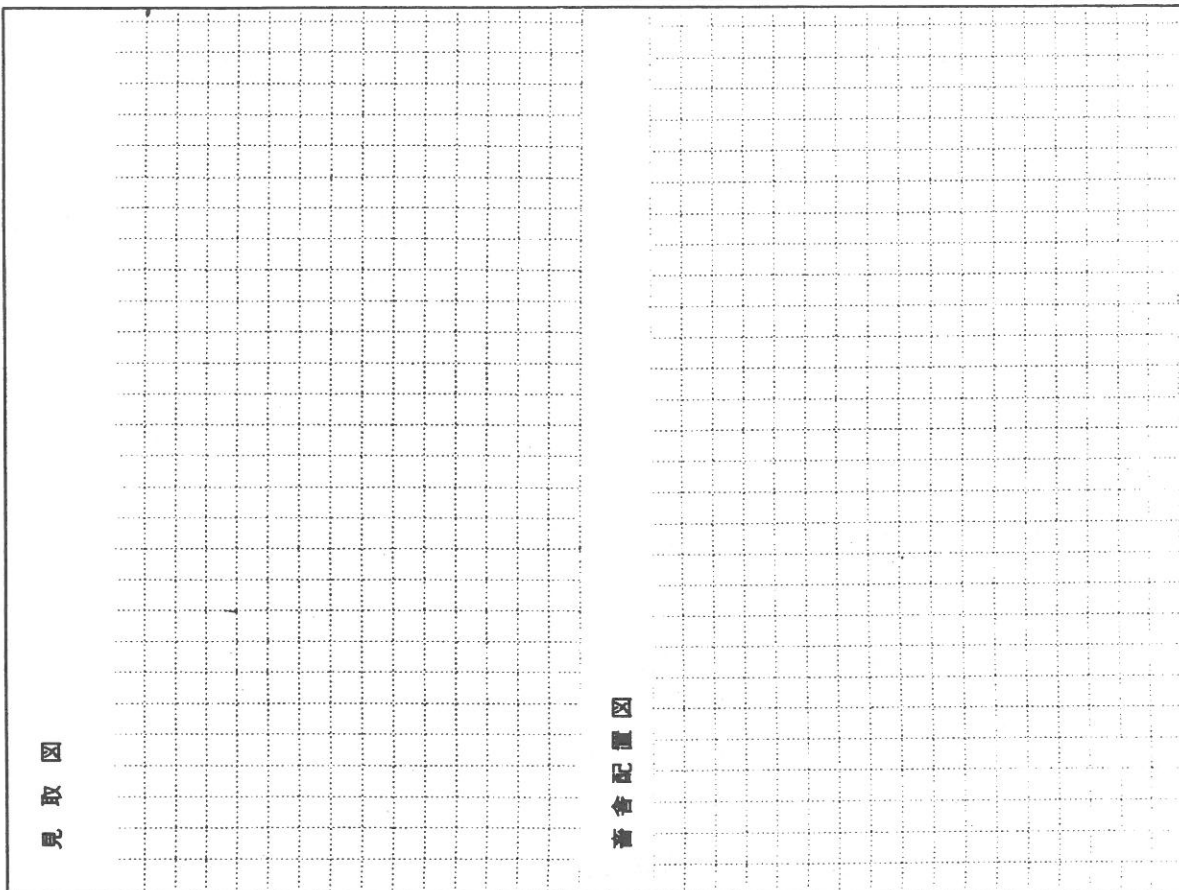
No. _____ 市町村 作成 年 月 日

氏名	宅地	Tel	Tel	
養豚場又は団地の名称				
従業員数	男	女	人	パート
経営開始年	昭和	畜舎の構造	RC・トタン・スレート・その他 ()	
		補助の有無	有 (年度)、無	
経営形態	繁殖・繁殖一貫・肥育		自営・貸付・預託 預託者:	
給与形態	(農協)・残飯・残飼・自家配 (商系)・単飼 (生・煮)			
飼養規模	繁殖母	頭	候補頭	肥育頭
	哺乳	頭	育成頭	計頭
繁殖導入方法	自家産・セリ市・相対・農協・家畜商・家畜商・商社			
販売方法	セリ市・相対・農協・家畜商・自販・商社			
組織導入	農協養豚組合グループ結成 その他 () () () () ()			
ふん尿処理状況	固液分離・タレ流し・土地還元・その他			
衛生状況	踏込槽 (有・無), 消毒方法		消毒回数 回/月	
備考				

(サイズB4)

見取図

畜舎配置図



衛生状況調査表(豚)

調査員	
-----	--

No. _____ 市町村 _____ 調査 年 月 日

農家名		飼育地						
		電話						
飼養形態		繁殖・繁殖一貫・肥育						
飼養規模		繁殖 ♀ ♂ 頭		育成 頭		頭		
		哺乳 頭		肥育 頭		計 頭		
最近の豚導入 (有・無)		導入先						
		導入者						
導入頭数		月 日		頭(子豚・育成・繁殖候補・その他)				
予 防 注 射	(豚コ・豚丹)	種雄	種雌	候補	哺乳	離乳豚30 ~40日令	肥育素豚 60kg未満	肥育豚 60kg以上
	接種済							
	未注							
疾 病 発 生 の 状 況	疾病(有・無), へい死(有・無), 下痢・肺炎・赤痢・不明()							
		哺乳	育成	肥育	候補	種雌	計	
	疾 病							
	へい死							
単発・頻発・集団・単一・複数								
治療及び指示薬 (有・無)		獣医師名		医薬品販売業者				
		内容						
消毒の状況		薬品名		方法		回数 回/月		
備 考								